

中国東北今年春の旱魃(かんばつ)状況

中国東北地方は今年で連続6年目の旱魃に遭いました。特に西部地区においては種まきができない場合と苗が枯れてしまう被害がでています。吉林省の統計により、次の被害を及ぼしました。

被害面積: 3679万ボ(1ボ = 1000平方メートル)

その中、畑被害面積 3602万ボ

水田被害面積 77万ボ

苗が枯れた面積: 39万ボ

種まきできない面積: 200万ボ

生活用水(飲料水)困難な人数: 31.43万人

飲み水が足りない家畜頭数: 17.31万頭

旱魃状態: 旱魃地域の乾燥土の厚さは1~1.5メートルの深さです。酷い地域の土の水分含量は5%しかありません。

1 万個の機械灌漑用井戸は枯れ、水が出ない状態です。140万ボの水田は水不足で田植えできません。

今後の懸念事項:

1、この旱魃により今年秋の収穫の減産と繋がる心配です。特に穀物の相場に影響を及ぼすのではないかと心配します。

2、春の旱魃の後に、夏と秋の洪水になる可能性が強く、農産物の収穫に影響があるのではないかと心配します。

中国事務所 周長海 2004年6月23日

中国では吉林省、遼寧省、黒竜江省、以上東北三省の米の品質が良く、美味しいといわれています。そのため、中国産米の中で国内でも人気がある米です。

しかし、東北地域の気候、倉庫の容量、農用水の不足などの原因により、近年、稲作栽培面積は徐々に減りつつあります。政府も水田を畑に改造し、稲作を畑栽培に転換することを指導するとともに、今年は奨励金をつけて米の生産拡大もはじめています。

吉林省では、稲作を地域ごとに定め、今まで井戸水で大規模稲作を行っている白城地域と松源地域の稲作を縮小し、比較的水の豊富な長春、吉林、延辺、通化の四つ地域を稲作地域として決めました。この政策は2003年から2007年にかけて行われます。2003年に既に50万ボ(1ボ = 1000平方メートル)の水田を縮小し、畑に転換しました。2007年まで何百万ボの水田が変更される計画です。

米だけでなく中国国内の需要の拡大で、大豆をはじめ穀物全体が足りなくなってきました。漬物の多くが中国からの輸入に頼っている現状では、次には野菜や鰻までも含めた、中国からの輸入を再考する時期が迫ってきている気がします。